

2002年9月10日

ホンデュラス通信

発行：伊藤美保

4月にお別れをして、はや5ヶ月がたちました。みなさんお元気ですか？

わたしのほうは4月17日～7月4日まで、長野県の駒ヶ根市という所で、ホンデュラスで働く(ホンデュラスの小学校の先生に算数の教え方を教える)ための訓練をうけたあと、7月18日に日本を出発！19日に初めてホンデュラスの地をふみました。広い太平洋をこえるし、地球儀で見ても日本と正反対に近いところにあるなあ、とは思っていましたが、なっなんと、日本からホンデュラスまで飛行機で約30時間！もかかりました。遠く、日本ではあまり知られていないホンデュラスではありますが、1カ月半過ごしてみても、とてもすてきなおもしろい国だと思うので、みなさんに少しでもこの国のことをお伝えできたらいいなあ、と思ってこのお便りを書いています。

まずは、場所から。



国名の由来：ホンデュラスとは「深い淵」を意味するスペイン語の航海用語

面積：日本の約3分の1 九州と北海道をあわせたくらいの広さ

人口：615万人 東京の人口の約半分

言葉：スペイン語

ブエノス ディアス …… おはようございます

ブエナス タルデス …… こんにちは

オラ …… やあ(友達同士のあいさつ)

グラシアス …… ありがとう

アスタ ルエゴ …… また会いましょう

時差：日本より15時間遅れ(日本が夜9時、寝る時間のときに、ホンデュラスではまだ朝の6時、起きる時間です。)



首都：テグシガルパ
の風景です。

テグシガルパとは
先住民の言葉で、
「銀の丘」という
意味です。むかし
は、金や銀がこの地
でたくさんとれた
そうです。

宗教：
ホンデュラス人の
90%がキリスト教
のカトリック教徒で
す。
写真は、サンタルシア
という所にある、
カトリックの教会で
す。



ホンデュラスの国鳥である、グアカマヤです。
羽の色が赤、黄、青色（信号！）でとってもきれいです。



ホンデュラス通信

第2号
2002年10月8日
発行：伊藤美保

コモ エスタ？（スペイン語で「お元気ですか？」の意味です。）日本では秋も深まり、いちようや紅葉で山がきれいなころでしょうか。

こちらホンデュラスでは今は雨季なので、山は緑がとてもきれいです。日本は春夏秋冬4つの季節がありますが、ホンデュラスは雨季と乾季の2つの季節があります。

・雨季（雨が降る季節）・・・6月～11月頃まで

・乾季（雨がほとんど降らない季節）・・・12月～5月頃まで

雨季といっても毎日雨が降るわけではないのですが、9、10月はハリケーン（台風）がよく来る時期なので、今はハリケーンの影響で毎日のように雨が降っています。といっても、一日中雨が降るわけではなく、夕立のように、短い時間に強い雨が降ります。

乾季でも、12、1、2月は少し雨が降るようなのですが、3、4、5月はほとんど雨も降らず、1年のうちで1番暑い時期だそうです。



雨季なので雨で洗われて緑がきれい。

乾季になると雨が降らないので、植物も枯れたような感じになり、砂をかぶって白っぽくなるそうです。

写真はグイノペ村の景色です。自然豊かで、牛や馬も道（未舗装）を歩いています。バス、車もありますが、馬に乗っている人もいます。

いよいよ任地であるグイノペへ！

7月19日にホンデュラスに到着し、7月24日～9月5日までの6週間、サンタルシアという町でスペイン語の語学訓練を受けたあと、9月12日いよいよ任地であるグイノペへ！ホンデュラスの南の方にある、エルパライソ県グイノペ郡グイノペ村で今から仕事をしていきます。写真は職場であるグイノペ地区教育委員会です。



*** ホンデュラスでよく食べられている食事・1 ***



・奥の小豆色は「フリフォーレス」、小豆に塩を入れて煮たものです。「日本ではこれ(小豆)に砂糖を入れて煮るよ。(おしるこ)」と言うと、ええっ、信じられない!という顔をされます。
 ・手前の黄色は「プラタノ」、バナナと似てるけど種類がちがい、バナナより少し大きめで、ゆでたり油で揚げたりと調理して食べます。(写真は油で揚げたもの)甘くておいしいです。
 ・右奥の白色は「ケソ(チーズ)」、日本のチーズと味がちがって、ちょっとしょっぱいです。



・上の写真は「トルティージャ」、とうもろこしの粉に水を入れて練り、まるくうすく形を整えて焼いたものです。ホンデュラスでは、トルティージャは主食で、日本でいうごはんのように毎食食べます。
 そのまま食べるのがふつうですが、ケシージョ(とろけるチーズみたい)やフリフォーレスをはさんで食べるのもおいしいです。



ホンデュラスのお金です。単位はレンピーラ。なので1円ではなく、1レンピーラです。紙幣の種類は8枚です。20、50、100、500レンピーラには、ちゃんとすかしも入っています。1レンピーラ=8円ぐらいおもしろいのは、印刷された時点で大統領などのサインが入るので、同じ100レンピーラ紙幣でも、紙幣によってサインはいろいろです。

小さいお店で500レンピーラなどの大きいお金を出すと、「おつりがない。」と言われて物が買えないので、小銭をあらかじめ用意しておく必要があります

ホンデュラス通信

ホンデュラス通信

第3号

2002年11月12日

発行：伊藤美保

¿ Qué tal están ? (け たる えすたん? スペイン語で「お元気ですか?」の意味です。)

この前^{まえ}といっても1ヶ月前^{かげつまえ}の10月11日、La Ceiba(ら・せいば)という街^{まち}で、ホンデュラスの伝統^{でんとうてき}的な踊^{おど}りの全国大会^{ぜんこくたいかい}がありました。ホンデュラスには18の県^{けん}があり、それぞれの県^{けん}の代表校^{だいはうこう}がその全国大会^{ぜんこくたいかい}に出場^{しゅつじょう}するのですが、なんと私^{わたし}の今住^{います}んでいるグイノペの高校^{こうこう}が、El paraiso(エル・パライソ)県^{けん}の代表^{だいはう}としてこの全国大会^{ぜんこくたいかい}に出場^{しゅつじょう}するというので、グイノペ村^{むら}の人たち^{ひと}と一緒に^{いっしょ}に、見^みに行きました。



ホンデュラスの民族^{みんぞく}衣装^{いしやう}です。衣装^{いしやう}の色^{いろ}はさまざま^{さまざま}ですが、女^{おんな}の人は下^{した}の写真^{しゃしん}のように、すその広^{ひろ}いスカートと、みつあみ^{みつあみ}（買ってつけている人^{ひと}も多い）^{おお}をすること、男^{おとこ}の人は帽子^{ぼうし}をかぶることが特徴^{とくちょう}のようです。

右^{みぎ}の写真^{しゃしん}のようにスカート^{スカート}のすそ^{すそ}を広^{ひろ}げて、右^{みぎ}に左^{ひだり}にゆらしながら踊^{おど}っていてもきれいでした。ホンデュラスの伝統^{でんとうてき}的な音楽^{おんがく}にのって踊^{おど}るのですが、こちら^{こちら}の人は踊^{おど}りが上手^{じょうず}！小さいとき^{ちい}から何かパーティ^ながあると踊^{おど}っているから、とても楽^{たの}しそうに華麗^{かれい}に踊^{おど}ります。



左^{ひだり}の写真^{しゃしん}は別の日^{べつ}（9月29日）に、グイノペのホテル^ひで、ホンデュラスの伝統^{でんとうてき}的な音楽^{おんがく}を聴^きいたときの写^{しゃ}真^{しん}です。踊^{おど}りの全国大会^{ぜんこくたいかい}でも聴^きいたその伝統^{でんとうてき}的な音楽^{おんがく}は、すこ^{すこ}しテンポ^{テンポ}の速^{はや}い3拍子^{びょうし}で、素朴^{そぼく}な明^{あか}るい感^{かん}じの、踊^{おど}りたくなるような、素敵^{すてき}な音楽^{おんがく}でした。

*** ホンデュラスの国旗 ***



上下の青は、ホンデュラスに接しているカリブ海と太平洋をあらわし、5つの星は中米5ヶ国（グアテマラ、エルサルバドル、ホンデュラス、ニカラグア、コスタリカ）をあらわしています。

1821年9月15日にスペインの支配から独立した中米連邦共和国が、上記5ヶ国だったため、地理的に

中米になりそうなメキシコ、ベリーズ、パナマも中米5ヶ国には入らないそうです。スペインからの独立当時、ベリーズはイギリスの植民地、パナマはコロンビアの一州でしたし、

中米連邦共和国はメキシコに支配されていたこともあるためか、こちらの人々はメキシコのことを北米だと考えているからです。中米連邦共和国の旗が青・白・青で構成されていたため、現在の中米5ヶ国の国旗は青・白・青を基調にしています。

*** ホンデュラスのバス ***

ホンデュラスには、鉄道や電車はほとんどないので、バス路線はかなり発達していて、人々の足として活躍しています。

写真のバスは、アメリカのスクールバスの中古車で、主要都市市内など、たくさん走っています。市内だと日本円で10円程度で乗ることができます。



出発点と終点以外にもだいたい決まったバス停はあるのですが、バスが通るルートであれば乗りたい所で乗り、おりたい所でおろしてくれます。バスには運転手と車掌さんがいて、車掌さんの仕事は「・・・行きだよー」とバス停付近の人に教えることと、

集金^{しゅうきん}です。

バスにかいてある行き先^{いきさき}が違^{ちが}うことがあるので、車掌^{しゃしょう}さんに聞^きいて乗^のるのが確^{かく}実^{じつ}です。

ホンデュラス通信

第 4 号

2002年12月8日

発行：伊藤 美保

¡ Buenas tardes ! (ぶえなす たるです！スペイン語で「こんにちは」の意味です。) 日本ではもう冬、寒い日々をお過ごしのことと思います。ここホンデュラスでも寒くなってきました。といっても日本の10月ぐらいの寒さです。(地域によって差はありますが)

今回は **ホンデュラスのきょういく** について少しお伝えしようと思います

- * 7歳からの小学校6年間、中学校3年間、高校3年間、そして大学へ
- * ホンデュラスの学校は大きく分けると3種類あり、学校の始まりと終わりの時期が違う

- ・ 公立・・・2月15日ごろ～11月15日ごろまで(12、1月は休み)
- ・ 私立・・・2月はじめ～11月15日ごろまで(12、1月は休み)
- ・ ビリングエ(バイリンガル校)・・・9月～6月(7、8月は休み)

ビリングエでは、スペイン語と英語で質の高い授業が行われています。そのため授業料も高く、お金持ちの子どもしか通えない学校でもあります。

- * 公立の小学校について



(小学校の男の子の制服) (小学校の女の子の制服) (中学高校の制服)

- ・ 公立小学校の授業料は無料(日本と同じ)ですが、義務教育は小学校6年間のみ。
- ・ ホンデュラスの識字率(読み書きできる人の割合)は73%、小学校への就学率も80%

をこえているといわれています。(そんなにひどい数字ではないですね)

がしかし、1年生から2年生になる時点で留年や退学する子がたくさんいて、なんと

4人に1人は留年しているともいわれてます。また何度も1年生をくり返し、いやになって



やめる子、親が学校よりも働いてくれることを願っているという子などもいて、中学に進める子となると全体の40%ぐらいなのだそうです。

- ・右の写真は、ウニドセンテ（先生1人で6学年！！教えている学校）の授業風景です。
- ・日本では教科書は一人ひとりに無償（ただ）で配られますが、ホンデュラスの公立学校では教科書は学校の物でそれを借りて学習しているかたちなので、汚したり破ったりすると5 Lps.（5 レンピーラ = 約40円）払わなければならないそうです。ホンデュラスの公立学校にはウニドセンテの学校がたくさんあるので、教科書の内容を全部おわりきれない学年もたくさんあるのが現実のようです。

ホンデュラスの2年生と4年生の算数の教科書です。1、2年生は1冊ですが、3年生以上になると冊数がふえます。



* 私立の学校は、授業料を払わなければいけないかわりに、教科書も一人ひとりに配られ、

1学年に1人の先生がいるのが普通だそうです。

* 公立・私立・ピリングエと、システム、教育の質に差があるようです。また同じ公立の学校でも、街の中にある学校で1学年に1人の先生がいて、コンピューター室！！まである学校もあれば、山の中にはウニドセンテの学校もあるなど、公立学校の中でも行く学校によって教育の機会にかなり差があるようです。

日本とホンデュラスの教育の違いは興味深いので、また折にふれお伝えしようと思います。

ホンデュラスのタクシー

大きな街にはタクシーがたくさん走っています。

日本ではメーターがついていて料金が表示されますが、ホンデュラスではメーターはなく、乗る前に場所を言って値段を運転手さんと話し合って決めます。たいてい最初、運転手さんは高い値段を要求してきます。「その値段なら乗らないよ。」とこちらが言うと値段を安くして



くるのでおもしろいです。値段は首都のテグシガルパ内では40レンピーラ=約320円ですが、中(小?)規模都市のダンリという街では、10レンピーラ=約80円で乗れます。

¡ Feliz Navidad !(フェリス ナヴィダド! メリークリスマス!)

楽しい冬休みを、そしてよいお年をお迎えください。